

令和元年度 第2回千代田区図書館評議会 議事要旨

【日時等】

〈実施日〉 令和2年3月23日（月） 10:00～10:50

〈場 所〉 千代田区役所 403 会議室

〈出席者〉 ◦ 評議会委員（8名出席）

野口 武悟（会長） 鶴田 拓哉（副会長）

丸山 郁太郎 高山 剛一

木原 一雄 牧田 裕一

福山 伸隆 北島 敦子

◦ 区立図書館指定管理者

ゼネラルマネージャー 宮尾 賢一

千代田図書館長 小出 元一

日比谷図書文化館長 大島 康平

◦ 事務局

千代田区地域振興部副参事（特命担当） 大塚 立志 他2名

【資料】

—当日配布資料—

- 1 令和元年度第2回千代田区図書館評議会議事次第

—事前配布資料—

- 2 2019年度区立図書館業務計画書に関する質問事項等への回答
- 3 図書館評価シート（案）

【次第】

1 開会

地域振興部副参事挨拶

2 報告

「2019年度区立図書館業務計画書」に関する質問事項等への回答について

3 議題

図書館評価シート（案）について

4 連絡事項

(1) 令和2年度千代田区図書館評議会の活動内容について

(2) 次回日程

【議事経過】

1 開会

＜地域振興部副参事 挨拶＞

地域振興部副参事より挨拶を行った。

2 報告

＜「2019年度区立図書館業務計画書」に関する質問事項等への回答について＞

業務計画書に関する質問事項等への回答について、「2019年度区立図書館業務計画書に関する質問事項等への回答」に基づき、報告が行われた。

その後、報告事項についての質疑応答。

委員： 「2019年度区立図書館業務計画書に関する質問事項等への回答」1ページ目の図書館の経営方針についての回答において、区の方針に基づいて業務計画を作成しているところがあるが、区が図書館に対してどのような方針をもっているか伺いたい。

副参事： 区では区立図書館の「基本構想」を策定しており、その「基本構想」を具体化した「業務要求水準」を、指定管理事業者を選定するときに示している。指定管理者は「業務要求水準」に沿って業務計画を作成し、計画に基づいて図書館を運営している。また、時代の流れとともに変化する利用者のニーズに対応するために、定期的に現場と所管課とで打ち合わせや協議を行っている。

会長： 他に質問がなければ次の議題に移りたいと思う。業務計画書について追加で質問等がある場合には、事務局に問合せいただくようお願いしたい。

3 議題

＜図書館評価シート（案）について＞

- 会 長： 第1回評議会の検討結果をもとに修正した図書館評価シートを事前に委員宛に送付している。まずは評価シートについて、事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局： それでは、評価シートについて説明する。指定管理者が設定したコンセプト毎に図書館の運営について評価する点に変更していないが、大きな修正点としては「評価のポイント」による感覚的な評価をやめ、指標別に評価年度の実績と目標値または前年度実績とを比較することで、数値による実績評価を行うこととした。また、実績評価のみでは評価できない点もあることから、裏面に「指定管理者による自己評価」と「評議会委員の評価」の2つの評価視点を追加し、指定管理者と評議会委員に自由記述で評価を記載していただくようにしている。最終的には、「実績評価」「指定管理者による自己評価」「評議会委員の評価」の3つの視点からの評価をまとめ、4段階で総合評価を行う予定である。各項目の具体的な評価方法については、1枚目に添付している「評価の方法」をご覧ください。また、実績評価に使用する指標についても、各コンセプト別のシートをご覧くださいと思う。
- 会 長： 図書館評価シートについては、本日、おおよその形を固めたうえで、次年度第1回目の評議会にて実際に評価を行っていきたいと考えている。それでは、評価シートについて委員の皆様からご意見があれば頂戴したい。
- 委 員： 各コンセプトにおいて「主な取り組み」として5項目程度が挙げられているが、取り組みの優先順位や重要度などに応じて、これらの項目に評価の比重を設定する必要があるのではないか。
- 会 長： 「主な取り組み」については、他にも様々な取り組みがある中から評価すべき事項を抽出しているものだと思う。すべての取り組みが挙げられているわけではない中で、重要度などに応じて比重付けを行うのは難しいのではないか。
- 副 参 事： 「主な取り組み」は各種業務を集約したものであり、その中での比重付けについては、現在、所管課としては考えていない。すべての取り組みを均等に扱うことを想定している。
- 委 員： 評議会での評価を行う際には、評価シートの表面「実績評価」と裏面「指定管理者による自己評価」についてはすでに記入が済みであり、最後に「評議会委員の評価」の欄を委員が記入するという認識で良いか。
- 副 参 事： その認識で間違いはない。
- 委 員： 「指定管理者による自己評価」や「評議会委員の評価」は、評価基準に基づく定量評価であるのか。もしくは自由記述による定性評価であるのか。
- 千代田図書館長： 「指定管理者による自己評価」は、例えば、実績評価で数値として目標が達成できなかった場合に未達成の原因等について記載する欄であると考えている。「評議会委員の評価」ではそのような未達成の原因等も含めて、評価するというのではないか。
- 副 参 事： 「実績評価」は、数値をもとに目標達成率を算出して評価するため、定量評価であるが、裏面の「指定管理者による自己評価」は、指定管理者の努力した点や工夫した点、至らなかった点など、数値化できない点を記載する項

目である。「評議会委員の評価」においては、「実績評価」と「指定管理者による自己評価」の両方を踏まえて、各委員にご指摘・ご提案を記載いただくことで、今後の図書館サービスの参考にしたいと考えている。

委員： 「評議会委員の評価」においては「指定管理者による自己評価」が妥当であるかという評価視点も含まれているということによいか。

会長： そのとおりである。

委員： 中間評価や四半期ごとの評価などは行わないのか。現場の様子がわからないまま意見を述べるのは難しいが、現場の状況を四半期程度ごとに報告してもらえれば意見も言いやすい。

千代田図書館長： 図書館側ではパフォーマンス指標の数値を毎月出しているため、指標の一部であれば中間報告は可能である。

会長： この評価シートのみで評価することは難しいというご意見はもったもである。実際に評価を行う際には、指定管理者からの説明や事業報告書の配布なども検討していただきたい。

副参事： 事業報告書はまとまった段階で委員にお目通しいただく予定である。また、評議会においても、事業実績に関する説明や質疑応答を行う場を設けるつもりである。中間報告については、今年度が評価の方法を変更する初めての年度となるため、令和元年度の評価を行ってみた後に、正副会長と相談しながら実施を検討したい。

副会長： コンセプト①千代田ゲートウェイについて、発信・更新・配信などサービスを提供する側の指標が多いように思う。利用者が図書館のフェイスブックやツイッターをどれだけ活用しているか、どのように図書館に関する情報を得ているかなど、広報活動が利用者に伝わっているかどうかを示す指標もあったほうが良いと思う。

会長： 現状、それらの指標について実績数値が出せないのであれば、委員による評価の際に利用者視点での率直な意見を書いていただくことで補うことができるのではないか。

委員： SNS における反応件数や、ホームページへのアクセス件数等を指標として用いるのも一つの方法であると思う。

副参事： ご指摘の通りである。現在の利用者アンケートでは広報活動について受け手側の視点に立った実績数値を把握できていないため、ご意見については課題として受け止め、次年度以降、フィードバックできるような仕組みを検討したい。

会長： 今年度は評価の方法が変更となる初めての年度であり、実際に評価していただく中で修正点や改善点が出てくることが考えられる。今年度はこの評価シートにて評価を行い、改善点等を次年度の評価に活かしていくことでよりよい評価につなげていきたいと思う。評価シート（案）の一部修正については会長・副会長に一任いただきたいがよいか。

(評議会委員 承認)

それでは、図書館評価シート(案)については修正を含めた形で確定とする。

4 連絡事項

副 参 事： 評議会委員の任期は2年のため、委員の皆様には次年度も引き続きよろしくをお願いしたい。令和2年度の活動内容としては、本日議論いただいた評価シートを使用して、令和元年度の運営評価を行っていただく予定である。第1回の評議会は、図書館の事業報告がまとまる7月頃を予定している。また、令和2年度は、区において図書館の運営方針の見直しを行う予定である。千代田図書館、四番町図書館、神田・昌平まちかど図書館と日比谷図書文化館で2つに分かれている方針を一元的にまとめるとともに、区民のニーズや時代の変化に的確に対応した方針を策定することを計画している。委員の皆様からも方針についてご意見を頂きたく、適宜、正副会長にご相談しながら、評議会にて議題として諮っていただきたいと考えている。その際にはぜひよろしくをお願いしたい。以上で第2回千代田区図書館評議会を閉会とする。